

## デンマークの高等教育と看護学教育 —オーフス大学を視察して—

土取 洋子

**要旨** 第22回ICN 4年毎大会が、平成13年6月10日～14日、ICN（国際看護婦協会）とデンマーク看護婦協会主催で、コペンハーゲンにおいて開催された。ICN大会開催中に、コペンハーゲン周辺の保健医療、教育機関の見学が企画され、デンマークで唯一看護学の博士課程をもつ高等教育機関であるオーフス大学を視察する機会を得た。わが国では、急速に進む少子高齢化に対応すべく大学改革が推進される中で、高等看護学教育の受け入れ態勢の整備（カリキュラム、教育体制、入学者選抜）、及び教育内容の質的向上が迫られている。本稿は、デンマークにおいて非常に柔軟なカリキュラム構成をもつオーフス大学を見学し、本学におけるカリキュラムの再検討に資する若干の知見を得たので、高等教育の現状と看護学教育の歴史的変遷の概要を報告した。

**キーワード：**看護学教育、教育課程、Evidence-based Nursing、研究、倫理

### はじめに

第22回ICN 4年毎大会が、平成13年6月10日～14日まで、ICN（国際看護婦協会）とデンマーク看護婦協会主催で、コペンハーゲンにて開催された。今回は、世界97か国から約5,000人が参加し、日本からは過去最高の240人余りが参加しており、演題発表数も78題で今までで最も多かった。ICN大会はいつも、CNR（ICN会員協会代表者会議）、学生大会、および学術集会の3つの会議が行われる。毎回、大会開催中に主要会議の他に、開催地の看護職の協力のもと、保健医療施設、教育機関を見学することが企画される。今回は、学会参加の合間の施設見学で、高等教育機関である看護系大学（オーフス大学）を見学する機会を得た。そこで、大学設立からの歴史的変遷と現在の開講カリキュラムについて紹介を受け、デンマークにおける看護教育の一端を知る機会を得た。わが国では、ここ10数年間、少子高齢化社会の到来に対応すべく看護学の高等教育化が推進され、看護系大学は、平成13年には91校に増加し、10年間で8.3倍に急増している。また、国公立看護系大学院は、総数で修士課程が44課程、博士課程が15課程となった<sup>1)</sup>。そして、既に、各大学は、修士

課程における見直しの時期を迎え、折しも、この時期に海外の教育機関を見学する機会を得たので、オーフス大学視察で得られた情報と文献を参考にして、デンマークにおける高等教育と看護学教育の現状報告を中心に若干の知見を述べる。

### 1. デンマークの高等教育

#### 1) 高等教育一般

デンマークの高等教育は、レベルや入学条件によって通常次の3つのカテゴリーに分けられる。短期高等教育、中期高等教育、そして学士課程および長期高等教育課程である。日本と異なり、デンマークの「大学」は、長期の教育を施す機関で、主として研究者、高等学校教師、官僚、弁護士、裁判官、医師等の専門分野におけるアカデミックな人材を養成する教育機関を「大学」という。

デンマークでは、基本的に高等教育課程に入学するには青年教育課程（高等学校；普通高校、商業高校、工業高校、及び職業専門学校；義務教育終了後、大工、電気工、左官等の所謂職人を養成するための教育機関）を修了しなければならない。多くの高等教育課程は一般入学条件の他に特定の条件を設定し

ており、入学資格試験で特定科目を受験し、一定以上の成績をおさめることを条件とする場合もある。ほとんどの高等教育プログラムは、教育機関がそれぞれ入学定員を決定する自由採用の方針を取っている。つまり教育機関の持つ資源や物理的条件が許す限り、有資格（中期・長期高等教育は、「高等学校を卒業したこと」が入学資格とされるが、「高卒」、またはそれに相当する社会経験等の入学資格を有する）の志願者を入学させることができるのである。入学者の制限・選抜を行う場合は、通常、試験の成績が追加入学条件となるが、職業経験があればそれも追加点となる。

最新のデータによると、同一年齢層の47%が高等教育課程に進学するが、そのうちの25%は中途退学する。つまり、同一年齢層の約34%が高等教育を修了するのである。修了者の内訳は、短期課程が6%、中期課程が18%、そして長期高等教育課程は10%となっている（資料「デンマークの教育制度」「デンマークの教育機関と学生・生徒数」参照）。

デンマークにおける高等教育は、その教育課程を実施する教育機関が国立か独立（私立）であるかを問わず、主に国から資金提供を受ける。授業料は無料であるが、学生は、教科書や教材を自費で賄わねばならない。しかし、少数の民間教育課程は、国の認可を受けてはいるが政府からの援助金を全く受けていない（例えば、リラクゼーション療法士の訓練課程）。

短期の高等教育課程は、1年ないし3年の就学期間を有し、通常、定着した職種に作られる。最もよく知られた教育課程には、短期高等技能課程、市場経済課程、コンピューター専門課程がある。これらの課程は、若年者職業教育課程の上に作られているだけでなく、普通教育上級課程卒業などの資格を持つ若者が、時にはある種の補習課程を終えた後で、これらの課程に挑戦してもよい。これらは主に、実業系大学、すなわち商業大学や工業大学で実施される。

中期の高等教育課程は、3年ないし4年の就学期間を有し、非常に多様な課程で構成されている。これらは、定められた職能（例えば、国民学校教師の養成課程、教育指導者の養成課程、職域療法士や心理療法士の課程、看護学など）に必要な能力と資格を与えるため、その専門教育機関で行われる。中期教育課程の入学資格は、通常、普通教育上級課程卒業

または同等課程の終了である。時には、特定の科目で水準を満たす事も要求される。

中期教育課程は、また、各大学と大学学部の中の他の各高等教育機関の学士課程で構成される。学士課程は、3年間の独自課程で、就職と修士課程進学両方に必要な能力と資格を与える。

長期の高等教育（候補生課程）は、5年ないし6年の就学期間を有し、研究を基本とする課程であり、各大学と大学学部の中の他の各高等教育機関で実施される。殆ど全ての大学教育課程は、独自の3年間の学士課程と、これに続く2年間の候補生課程（修士レベル）で構成される。この方式をとらない教育課程もいくつかある。その例は、工学および医学や神学に関する修士課程である。修士課程、即ち2年間の上位課程の入学資格は、学士課程または受け入れる機関から入学に値すると認定された他の教育課程を修了していることである。

## 2) 入学者数の総枠規制と個別自由化

1993年から1996年にわたって、国会で7党によってなされた高等教育に関する多年度合意で、入学の自由化は、ごく少数を例外として、高等教育課程に徐々に導入されるべきと決定された。この目的は、現時点では達成されている。枠決めは現在、教師教育課程と保健教育課程に関して、中央レベルにおいてなされているのみである。この場合、個別自由化とは教育機関がその能力の許す限り、即ち教室や資格のある教師の数を提供できる限り、自由に入学者を受け入れる事を意味する。各大学・高等教育機関は独自に入学要件・定員を決めるという意味で、自由採用を実施しており、各教育機関は、さらに入学希望者全員を受け入れることができない場合、選抜基準を自由に設定する（資料「デンマークの教育機関と学生・生徒数」参照）。

## 2. 21世紀に向けて大学教育の動き

### 1) 新大学法

1993年に、新法（大学等に関する法律）が、各大学とその他の研究を基盤とする高等教育機関を対象として採択された。この法律は、これらの教育機関に高度の自治権限を与えている。

文部大臣は、義務的入学資格と各種教育課程の内容に関して、枠組みを設定する事に現在も責任を持っている。個々の教育課程の実際の内容は、カリキ

ュラムの形で、教育機関自身で作成される。

大学への助成金は、年度毎の在籍学生数（すなわち、入学試験の合格者数など）に比例する方式で中央官庁から配分される。教育課程の種別毎に、特定の配分率が設定されている。文部大臣は、教育の質と水準が教育課程に適用されている規定に示された基準に達していない場合、その教育課程を停止させたり、その募集を制限したりできる。しかし、そうでない限り、個々の大学は、例えばどの種の教育課程を設けるか、受け入れ可能な枠内で教育課程のそれぞれに何人の学生の入学を認めるか、機関の内部でどのように費用を使うか、などについて自ら決定する。

## 2) 大学の発展——基礎研究の拡充とそのための資金増額

文部省は、大学の拡充と基礎研究の強化・明確化のための行動計画を開始した。この計画では、各大学が質の高い国際的水準を確保できるように、教育・研究を推進させるための目標をいくつか描いている。これらの目標を達成するため、この計画ではさらに次の事を示している。

(1)大学の構造的な規模を大幅に拡大すること

(2)研究のための基礎助成金を増額し、大学への助成金の33%を占めるまでにすること

各大学はそれぞれ長期の戦略計画を作り上げ、その中で開発計画と特別目標—いわゆる先端分野—について述べている。

## 3) 工学および自然科学教育課程への関心の減少

この数年間、工学系教育課程への入学志願者数が顕著に減少している。1990年代の始めに比べ、関心は殆ど半減している。最近、自然科学系教育課程への入学志願者数も落ちこんでいる。

この傾向を抑えるため、教育システムの全ての階層において、いくつかの対策が既に執られた。例えば、科学と技術系の科目への生徒達の関心を増すため、国民学校に、「科学・技術」に関する新しい科目が導入された。初等教育や青少年教育における科学系科目に産業界が関わりを持つようにする対策も執られた。

## 4) 学士課程修了者の就職推進計画の強化

現在、一部の学士課程修了者のために、6ヶ月間の就職活動推進システムを設立する計画がある。このシステムの目的は、労働市場において学士課程卒

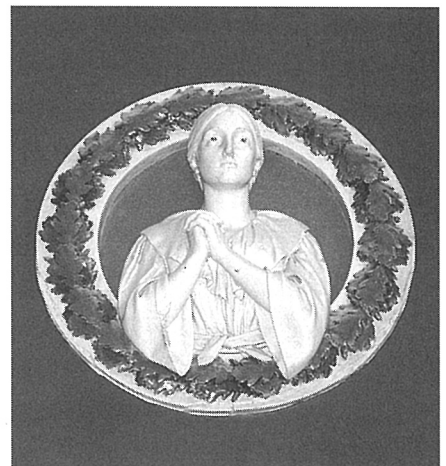
業者の就職の機会を強化する事である。これは、学士課程の教科となる事柄の爆発的增加に加えて、社会に出れば個人の能力は生産活動に使われ、労働市場がより一層流動的になるべく急速に再編成していく必要性に迫られる現状があるからである。

従来のデンマークの教育システムの特徴は、技能職の教育・訓練プログラム・実業志向の中期高等プログラム、及びそれより低い優先度を付与された大学部門にあった。しかし、社会構造の変化とグローバル化していく世界情勢にともない、研究資質及び教育プログラムは国家プロジェクトに留まらず、国際的ニーズへの対応に直面している。このような今日的課題の中で、21世紀に向けて、デンマークにおける大学教育の動きとその方向性は、総じて、研究（特に、基礎研究）を重要視した十分な予算化が強調される。デンマークは、自国に天然資源がほとんどないため、国家の知的財産、すなわち国民の「知識」をいかに活用するかが国の盛衰を左右する重要課題であり、国民の教育レベルをさらに高め、特に積極的な研究者の育成をめざし、高等教育機関が整備されつつある。

## 3. デンマークの上級看護教育<sup>2)</sup>

### 1) オーフス大学設立当初からの歴史的変遷

1938年、オーフス大学において、保健婦と看護婦のための教育および管理講座がオーフスコミュニオンホスピタル内に設けられ、デンマークの看護



婦は継続教育を受けられるようになった。この継続教育は、デンマークにおける疾病の予防対策を導入する試みの一部として、デンマーク保健局をもとに設立されたものである。ある調査では、疾病予防や健康増進について、その国の特別教育を受けた看護婦が初産の母親の家庭を定期的に訪問することにより、乳児死亡率を激減できたことが明らかにされている。その上、ここ数年、管理および教育に携わる

看護婦を養成する必要があった。保健婦養成科、婦長養成科および看護教師養成科の、三種類の科が最初から設けられた。いずれの講座も10ヵ月で、最初の4年間は財団および保険会社が助成金を拠出した。学生も授業料を負担した。

1943年に州政府が講座の運営を引き継ぎ、1946年に学生の授業料が免除になった。初年度の授業料を除き、受講はほぼ無料である。1955年以来、学生は"Statens Uddannelsesstøtte"（デンマーク学生奨学金制度）の奨学金に応募することが可能になった。



### ＜高等看護教育の学校における看護学教育の可能性＞

専門職としての看護の発展は、DSHの活動が常に中心である。教師と学生は、デンマークにおける看護科学の進歩に貢献している。このコースは、看護、助産、ヘルスプロモーション、そして病気の予防に焦点を当てることによって特徴づけられる。Fig1は、デンマークにおける看護婦と助産婦のための全体的な教育構造を示した。

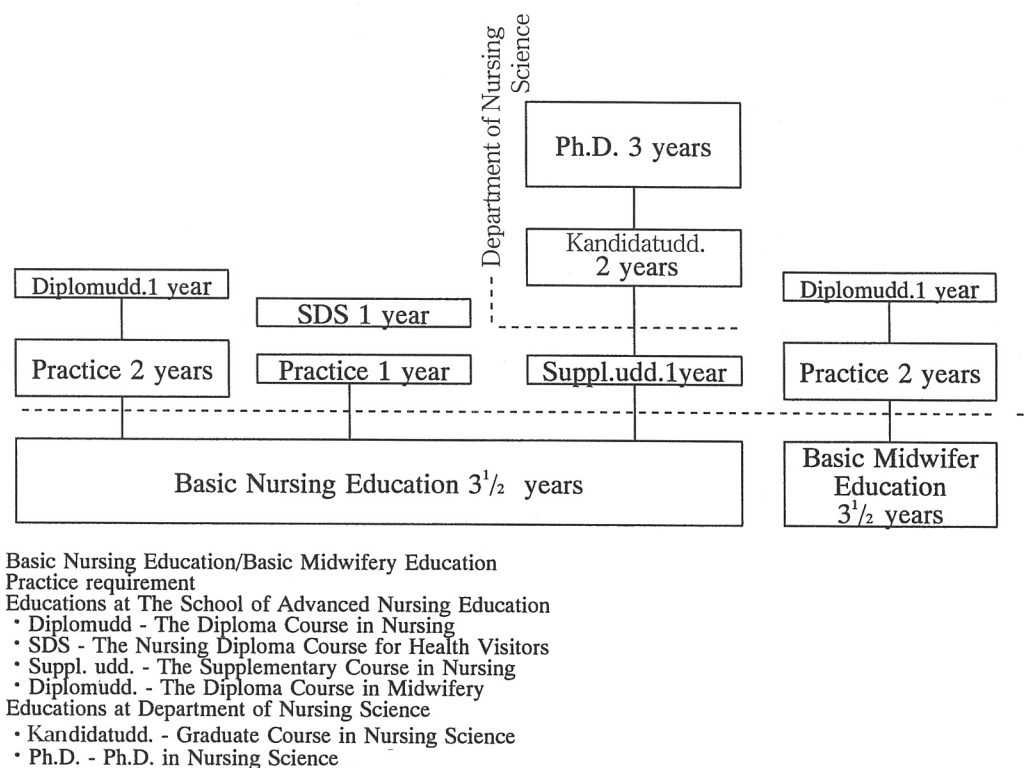


Fig1. Possibilities of Education in Nursing and Midwifery in Denmark <sup>2)</sup>

Table1. PhDs awarded by the University of Aarhus

- **Nursing/Care Science-Myth or Reality?**; Genesis and Structure of the Field of Academic Education and Science in Nursing in Denmark. by Karin Anna Petersen, PhD, Nursing.
- **Communication in the Primary Health-Care Sector:** a Qualitative Investigation of Relationship and Interaction between Home Nurse and the 'Difficult' Patient. by Jette Joost Michaelsen, PhD, Nursing.
- **Nursing Practice, Language and Cognition.** by Birthe D. Pedersen, PhD, Nursing.
- **From Unit to Unit** A phenomenological study of the content of nursing when transferring small children to and from an intensive care unit. by Elisabeth O. C. Hall, PhD, Nursing.



それまでは、デンマーク看護婦協会および Indenrigsministeriet（内務省）の助成金や無利子奨学金に応募していた。しかし、学生の大多数は、有給休暇を付与している雇用主から財政援助を受けている。

保健婦教育が開始されて以来、様々な点で変化してきてはいるが、その基本的な目的が、子どものいる家庭や学校の生徒を対象とした予防医療にあるという点は現在も変わりはない。管理者や教育者を養成するための教育も多く、その点で変化している。そのほか、1950年代には、保健婦と訪問看護婦の再訓練短期講座や補助講座など数多くの講義が行なわれるとともに、長年にわたって精神障害者対象の看護講座も実施されてきた。1958年には、オーフス大学 Vennelystparken 構内への移転に伴い、名称も「オーフス大学看護保健研究所」と改められた。

1965年の保健婦教育再編に伴い、その名称は現在のオーフス大学高等看護学校 (DSH)と改められた。また、それまでに存在していた3課程が2課程にまとめられ、保健婦養成課程と婦長および教育者養成課程に再編成された。そして、これらの2課程は「第1部」コースと呼ばれた。

1969年にこれらの課程は拡大され、「保健婦および看護婦継続教育課程」という、学年を1年延長した「第2部」としてのコースが設けられた。このコースは、看護の上級管理者養成を目的とした管理学と教育学を授けるために設立された。

時を同じくして、コペンハーゲン大学に学部が開設されたが、そこでは1976年まで「第2部」コースが設けられることはなかった。この時点で、オーフス大学高等看護学校の学生数は、年間で400人（各学科に200人ずつ）に達しており、これは現在の学生数とほぼ同数である。

1979年には、助産婦を育成するための高等教育が導入された。そして、「第1部」コースは「看護大学」と改称され訪問看護学、教育学、管理学の専門教育機関となった (Fig1)。

1991年には、オーフス大学に看護学大学院が設立され、デンマークにおいて初めての、いわゆる上級看護教育として「大学教育」と同等視されるアカデミックかつ研究者等を養成する看護学教育が実現した。さらに、2001年には、看護学の博士号が取得できるようになった<sup>3)</sup> (Table1)。

今日、DSH は、オーフス大学付属の独立機関となっている。組織的には文部省に所属し、国家財政によって運営されている。DSHの目標は、看護婦と助産婦のための理論的、実践的な研究を確立することである。

## 2) 高等看護学校(DSH)における教育と各専門コースの特性

職業としての看護を発展させることは、常にDSHの活動の中心となってきた。教育者や学生はデンマークにおける看護科学の発展に恩恵を受けてきた。コースは看護学、助産学、健康増進や病気の予防に焦点を置いているのが特徴である。Fig1はデンマークの看護婦や助産婦の総合的な教育体系を示している。

(1)看護婦のディプロマ (学士) コース (Fig2)  
看護婦のディプロマコースは、専門職としての看護婦が看護において下記に示すような職務分野内で、科学的なベースに基づいたより高度な資格の取得を目的とした継続教育である。

Table2. Example of optional courses

- Clinical nursing
- The elderly human being
- Caring in nursing
- Interdisciplinary themes and public health
- Professional management
- Value-based management
- Resource control
- Basic pedagogical attitudes within training
- Teaching & learning
- Educational planning concerning the clinical part of the nursing education
- The modern society & the young people of today
- Practice learning & preceptorship
- Competence development
- Quality development in an evidence-based perspective
- Nursing research
- Project work & project management

(文献<sup>2)</sup>より引用)

- ・臨床看護
- ・管理
- ・訓練と教育
- ・開発と研究

ディプロマコースは上記の4つの職務分野のひとつ

において、より専門性を深めたい看護婦にとって魅力的なものである。コースは臨床の専門家、看護教育の調整主任、臨床実習の指導医師、教育機関の看護教育者、そして、専門的な開発や研究プロジェクトに関わる看護婦のような立場の人々を対象としている（教育内容；Table2）。

#### (2)助産婦のディプロマ（学士）コース（Fig3）

助産婦のディプロマコースは、科学的根拠に基づくより専門性の高いテーマについて開発や研究が可能となるコースである（教育内容；Table3）。

Table3. Examples of optional courses

- Gender
- Femininity & motherhood
- Body perceptions & experiences
- The good birth
- Management & development in a midwifery perspective
- Qualification & competence development in midwifery
- Midwifery instruction & supervision
- Educational thinking in theory & practice learning
- Research processes & research methods
- Evidence based practice
- Quality control & quality development of midwifery practice

（文献<sup>2）</sup>より引用）

#### (3)保健婦のディプロマ（学士）コース（Fig4）

訪問保健婦向けのディプロマコースは、学生に訪問保健婦の業務に就く資格を与える継続教育である。同コースでは、公衆衛生、健康の促進、病気の予防を中心に学ぶ。訪問保健婦向けの教育は、訪問保健婦を志望する看護婦に対して行われる。訪問保健婦プログラムは、健康の促進と病気の予防を目的とした地域議会活動の一環である。この教育を受けた者には、地域議会の活動範囲内で、地域住民の健康向上を支援するための、健康促進と病気の予防活動に携わる資格が与えられる。訪問保健婦の教育を受けた者にはまた、難民や移民に対する援助業務、あるいは国際的な援助組織での業務に就く資格が与えられる。

#### (4)看護学（基礎教育・講座）コース（Fig5）

看護学（基礎教育・講座）コースは看護科学の基礎コースに相当する。同コースでは看護の分析と評

価を行う際の基礎的手段として、科学的理論や方法論の序論を学ぶ。看護職が、看護に関わる諸問題の分析を行う準備段階における調査や検討が対象となる。研究をとおして、様々な形態の看護活動が、社会的、文化的、または歴史的発展や前提条件を基に論じられる。看護学（基礎教育・講座）コースは、科学的レベルの高い看護学を習得したいと考えている看護婦向けに用意されており、また大学院の看護学コースに進む場合の応募資格となる。看護学（基礎教育・講座）コースは、看護学の科学研究指導を受けるための資格、知識そして理解を与えることを目的としている。

#### (5)修学期間

・コースは1学年、60 European Credit Transfer System（ECTS）ポイントに相当する期間で行われる。

・コースは1年間、あるいは3年間に渡って部分履修という形で履修できる。

・コースと教育課程についての一般情報

#### (6)学生として一勉学とその環境

学生たちは、コースの内容の良し悪しを自ら選択し、自分自身の教育に積極的な役割を持っている。学生の影響力は継続評価、校内委員会の立会人や、学生委員会、評議会、図書委員会、テクノロジーワークグループ、衛生安全委員会、学生自治会の会員としての立場を通して実現される。学生は良好な勉学環境の確立に自ら参加可能である。指導は主に課程を通じて行われ、コースはかなり自主学習に基づいているので、学生は、例えば、共同ミーティングを開いたり小さな勉強会を作ったり、学生自治会や学生委員会で積極的に活動したりして、自分たちの手で、共同で物事にあたるという職業にふさわしい意識と良好な勉学環境を築かなければならないということを確認する必要がある。

教育課程は、クラスでの講義、講演、演習、実習と結びついた学生による口頭と筆記の発表・提出に分類される。規定の授業時間の他にも、学生は宿題に多くの時間を費やす覚悟が必要である。宿題は例えば、読解、筆記課題、発表やグループワークの準備などから構成されている。

#### 3）オーフス大学健康科学部看護研究所

##### (1)看護学の修士課程（2年）

修士課程の講義は、①看護の現状と歴史的背景

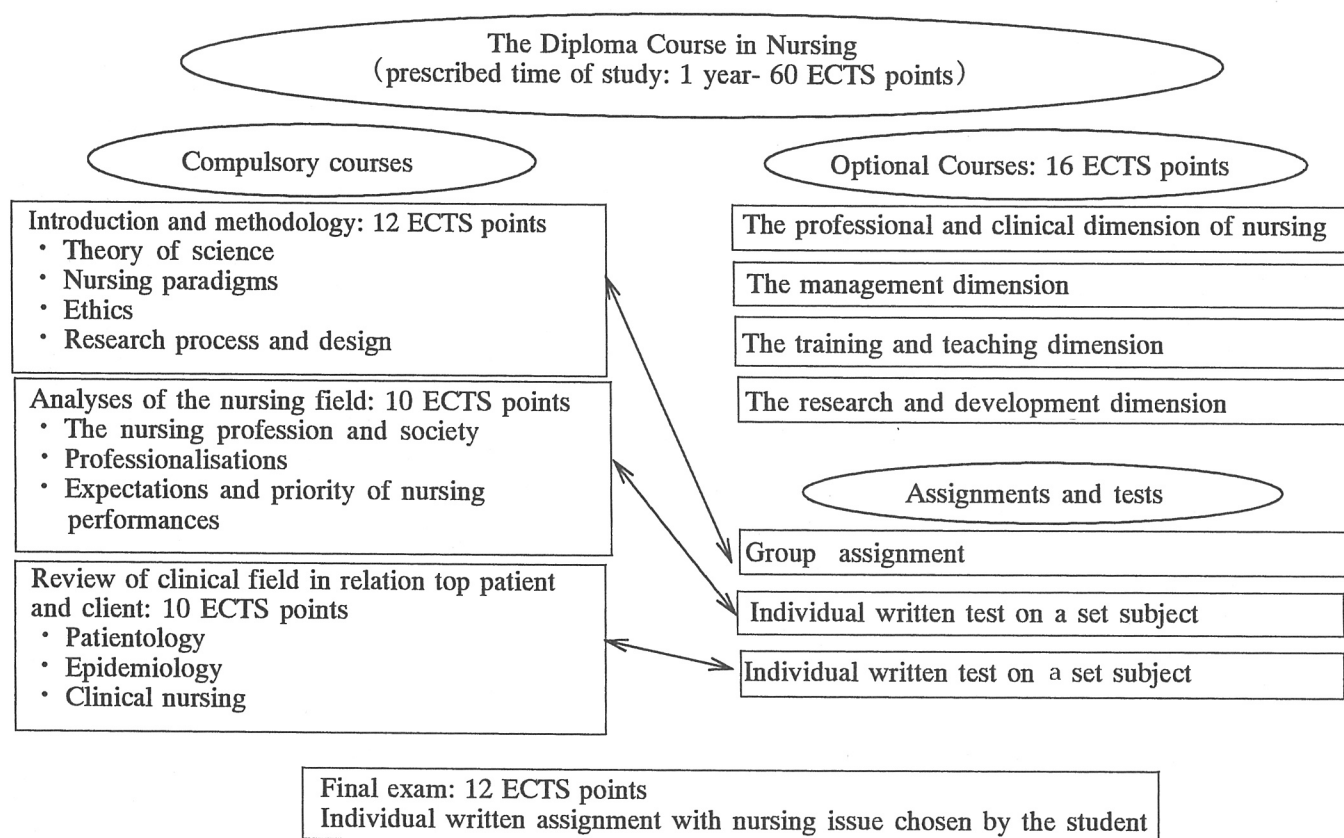


Fig2. The Diploma Course in Nursing <sup>2)</sup>

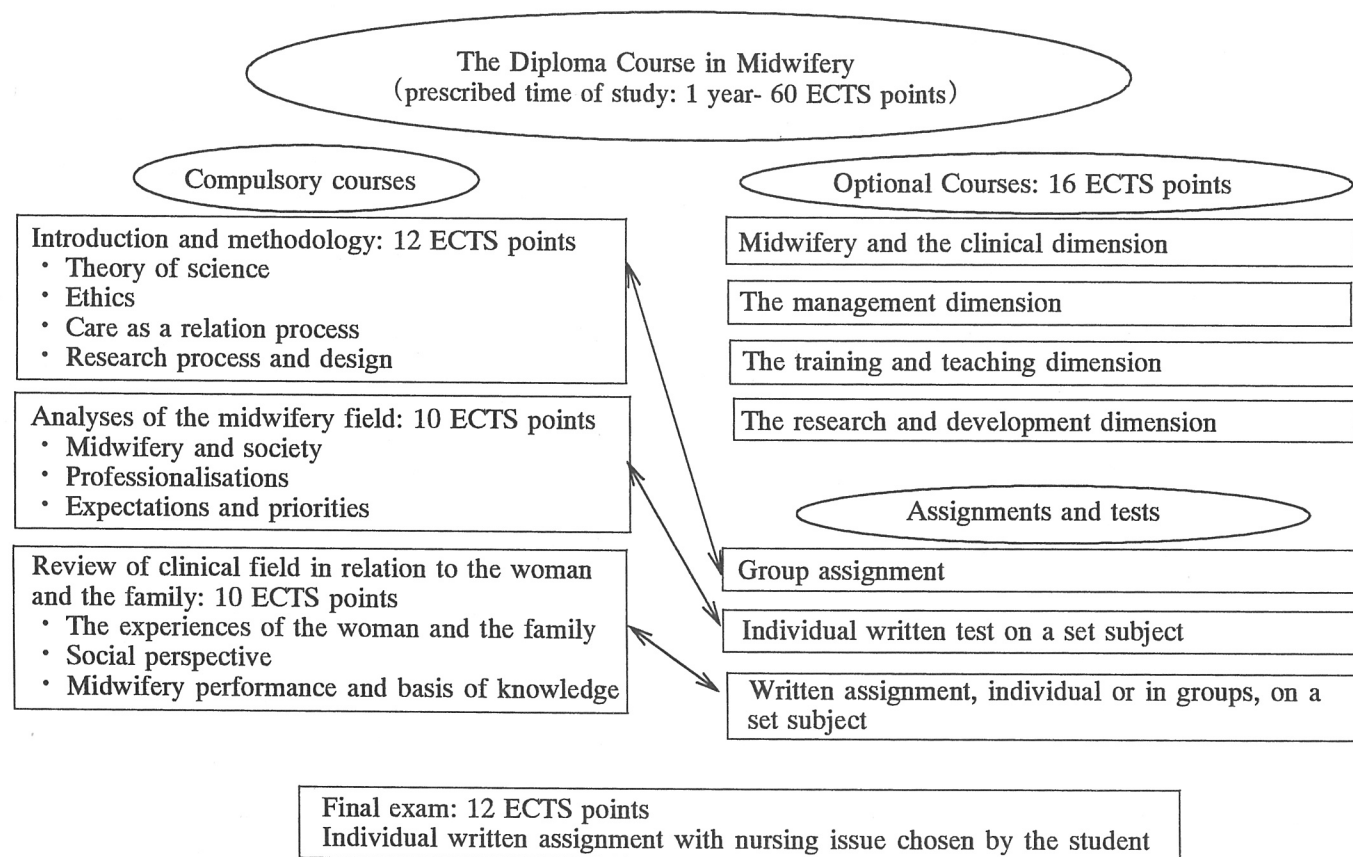
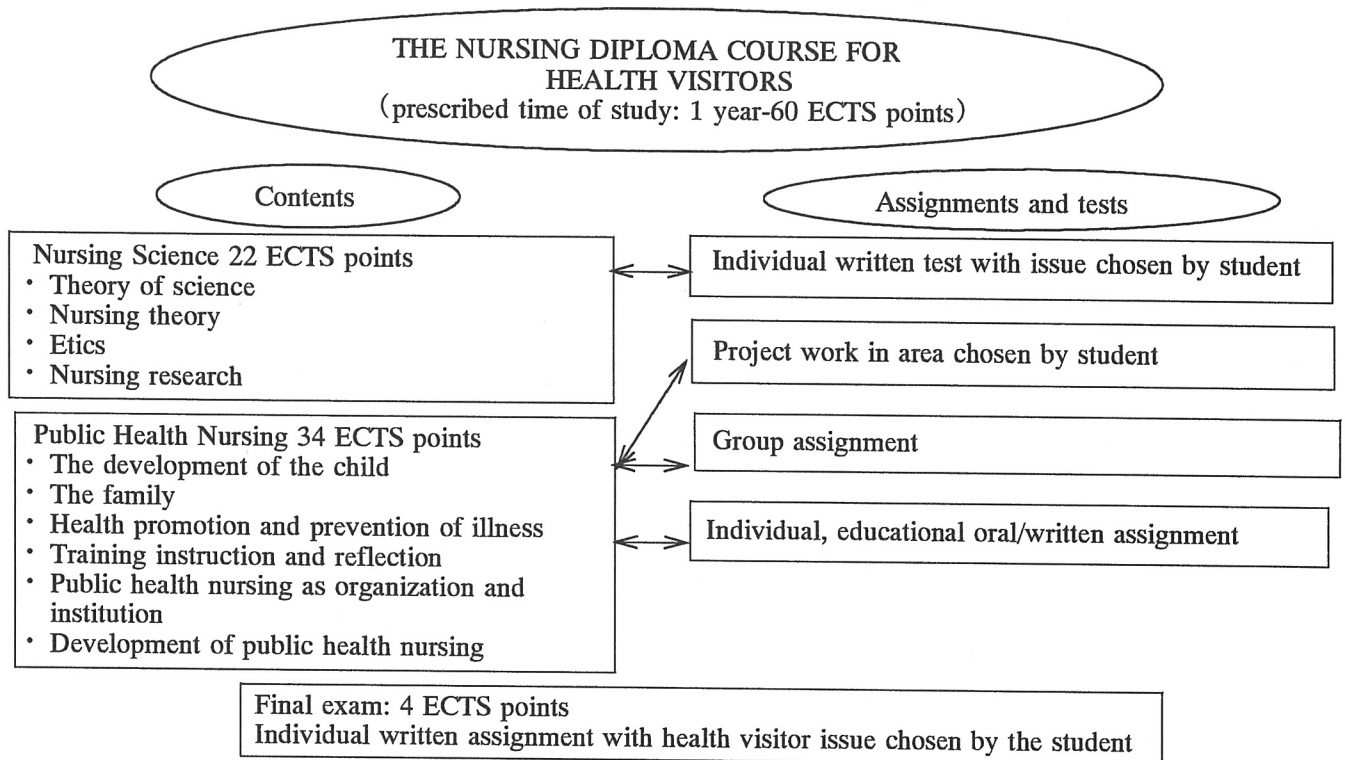
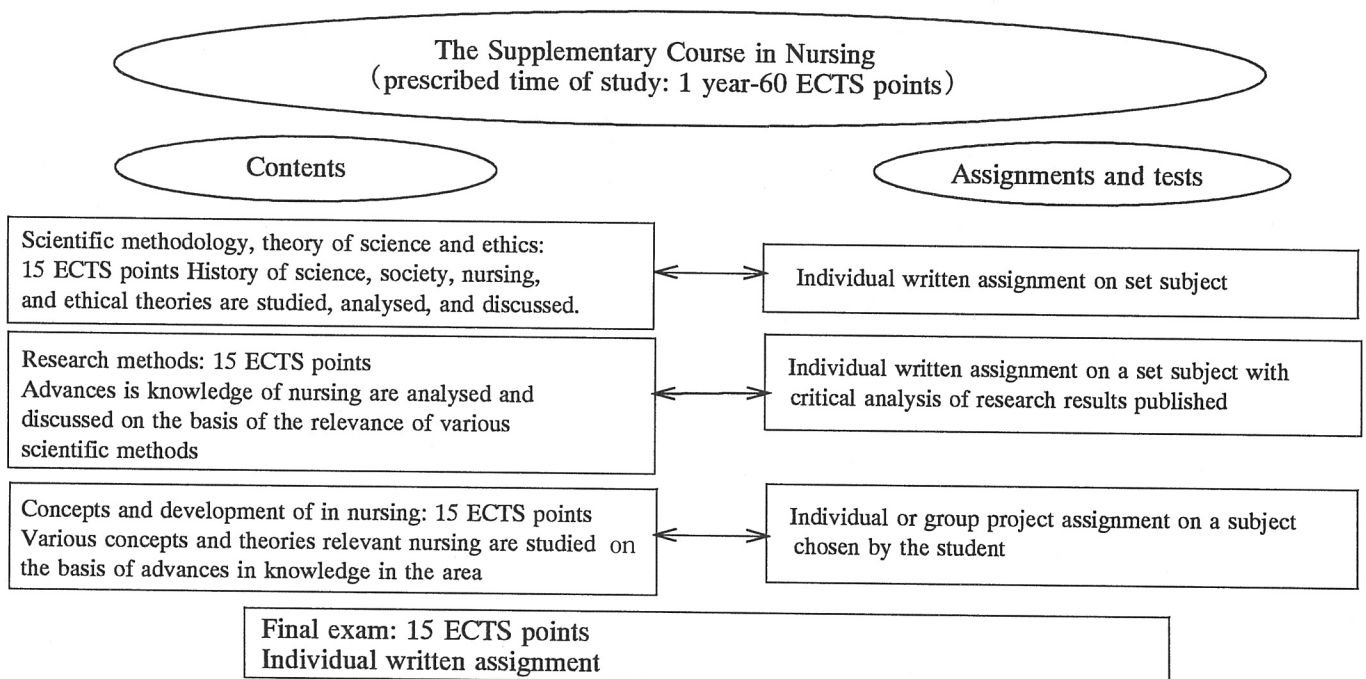


Fig3. The Diploma Course in Midwifery <sup>2)</sup>

Fig4. The Nursing Diploma Course for Health Visitors <sup>2)</sup>Fig.5. The Supplementary Course in Nursing <sup>2)</sup>

注) ECTS とは、外国での学習や研究を希望する学生に提供される多面的な教育の機会であり、学習プログラムの内容や構成が、個人とパートナーとなる研究機関との間で情報交換し、合意のもとに取り交わされる教育システムである。学生は、一定の研究期間の後に母校に戻るとは限らず、さらに、他の研究機関で研究に取り組む場合も、継続して学習・研究歴として達成度が記録される。

(25%) ②看護学の理論と実践 (25%) ③看護事業 (25%) からなり、残りの25%は論文に費やされる。

#### (2)看護学のPh.D

オーフス大学健康科学部の教官の指導のもとに、研究プロジェクトを企画する。看護学博士課程の学生は、医学及び歯学のPh.D課程の学生と同等視される。論文完成まで特定の期限はなく（但し、研究プロジェクトの企画書に期限を提示する）、博士論文が合格すると看護学博士の称号が得られる。

### 4. 保健科学研究と看護学のアプローチ

Evidence-Based Medicine(EBM)という概念が一般的に議論される昨今、看護学においては、Evidence-Based Nursing (EBN)という言葉が発生し、看護実践に医学的研究の成果がより多く活用されてきている。看護学の研究法には、介入研究が少なく、横断的研究が多いが、それは、介入研究を考える前に現状がどのようになっているか、臨床の看護職が感じているものを1つずつ記述する試みが横断的研究の多さに反映されている<sup>4)</sup>。大学院教育においては、大学院生あるいは我々教育者が、将来、研究デザインを重視し、介入研究によってもたらされたevidenceの強さ、ある程度の検出力をもった症例数を集めた研究プロジェクトに加わる場合に、倫理的諸問題に対応するデンマークの保健科学研究にみるシステムは1つのモデルとなり、わが国の高等教育機関において早急に検討を要する課題でもあるため、以下にその概要をまとめた。

#### 1) 保健科学研究<sup>5)</sup>

保健科学は、重要で密接な関係を持つ互いに依存する三つの認識論的問題を追求する。

(1)生命体としての人間の機能は何か？ どのようにして障害を受けるのか？

(2)病気とは何か？ その原因は何か？ どのようにして治療すべきか？

(3)人間を健康に保ち病気を避けるために必要な、環境的、社会的条件は何か？

保健科学研究に関する責任とその資金は、多くの公的機関と私企業の間で分担されている。この研究は、(大学、病院、私企業など)多くの組織の支援の下で推進されている。

保健科学研究についての総括的な責任は、デンマーク研究省に帰属する。しかし、このように保健業

務に責任を持つため、保健省はこの研究において重要な役割を果たしている。保健省の管轄する二つの研究機関、公立血清研究所と国立公衆保健研究所が、保健科学研究を推進する。

#### 2) 科学的倫理委員会のシステム

1970年代の終わりに、科学的倫理委員会のシステムがデンマークで確立された。1992年、委員会システムの活動に関する法的に規制された枠組みが、7つの地域委員会と中央科学倫理委員会とで構成するシステムとして確立された。この委員会システムは国によって管理されている。毎年、地域委員会は約3000件の研究プロジェクトを審査する。

中央科学倫理委員会の役割は、各地域委員会の活動を調整し、地域委員会の決定に対する異議申請を審査している。委員会システムの役目は、科学倫理規定に基づいて、末期患者や人間の受精卵など、人間に関する実験的課題についての生物医学的研究を判断し承認する。委員会システムの主な目的は、新しい価値ある知識に開発の可能性を広げながら同時に、生物医学研究プロジェクトに参加する患者を確実に保護する事である。

#### 3) デンマーク倫理委員会

デンマーク倫理委員会は、1988年のデンマーク倫理委員会法に基づき設立された。この委員会は、保健大臣に任命された17人の委員で構成されている。この委員会の活動には、公共部門における啓蒙と、論議の推進が含まれる。委員会はまた、一般的な倫理問題（例えば、新しい治療法、医療技術、それらの優先度判断）について、また、自らが主導する活動領域の中で出された多くの問題について、保健問題に関する権威として、助言を与える役目も果たす。この法律により委員会は、受精卵、胎児、遺伝子、性細胞、予知診断に関わる新技術、その他の問題について、現行法の中での規則と条件整備を確立する事について、保健省に対し提案しなければならない。

#### おわりに

膨大な研究蓄積をもつ医学に比して看護学は、近年、研究者の育成を独自に開発したところであり、発展途上にある若い学問といえる<sup>6)</sup>。今回、デンマークの高等看護学教育の一端を知る機会を得て、その発達段階は、わが国と比較的似ている側面を感じた。オーフス大学の看護教育は生涯教育を重視し、



社会的ニーズに対応した有機的な教育課程といえるが、2000年9月以降新たなカリキュラムに基づき教育が開始され、健康科学部看護研究所が誕生したばかりでもある。人々の福祉と乖離しない科学性に学ぶべきところは多く、今後いかなる発展を遂げるかは期待したい。大学紹介の教官から、「日本の看護の教育内容、研究方法は医学モデルを志向している。」という感想が聞かれた。確かに、オーフス大学における博士論文は、看護独自の科学性を追究した現象学的方法による論文が多い<sup>3)</sup>。しかしながら、学問としての看護学は、現象学とは明らかに異なり、既存の学問で代替できるものには限界がある。「看護」とは、看護学をどのように体系づけていくかは、その時その場で常に問われ、専門職自ら探求し続けなければならない未だ未成熟な途方もなく可能性に満ちた学問領域ではないか。時にその体系化をめざして自然科学の方法論にも立ち返り、看護学の基礎として独自の方向性を探求することも一つの方法と考える。

本稿は、国際学会開催期間中の施設見学の報告にとどまるが、今後、グローバルに変化するヨーロッパ諸国の教育改革の実情もふまえてながら、まず、自らのビジョンを明確にすること、そして、わが国独自の創発的研究組織として、地域社会に貢献する総合大学における高等看護学教育のあり方を検討していくことが課題である。

## 付 記

本研究にあたり、第22回ICN4年毎大会開催中、また本稿をまとめるに際しまして、デンマークに関する情報・資料を提供していただきましたデンマーク在住の田口繁夫様に深謝いたします。

## 文献

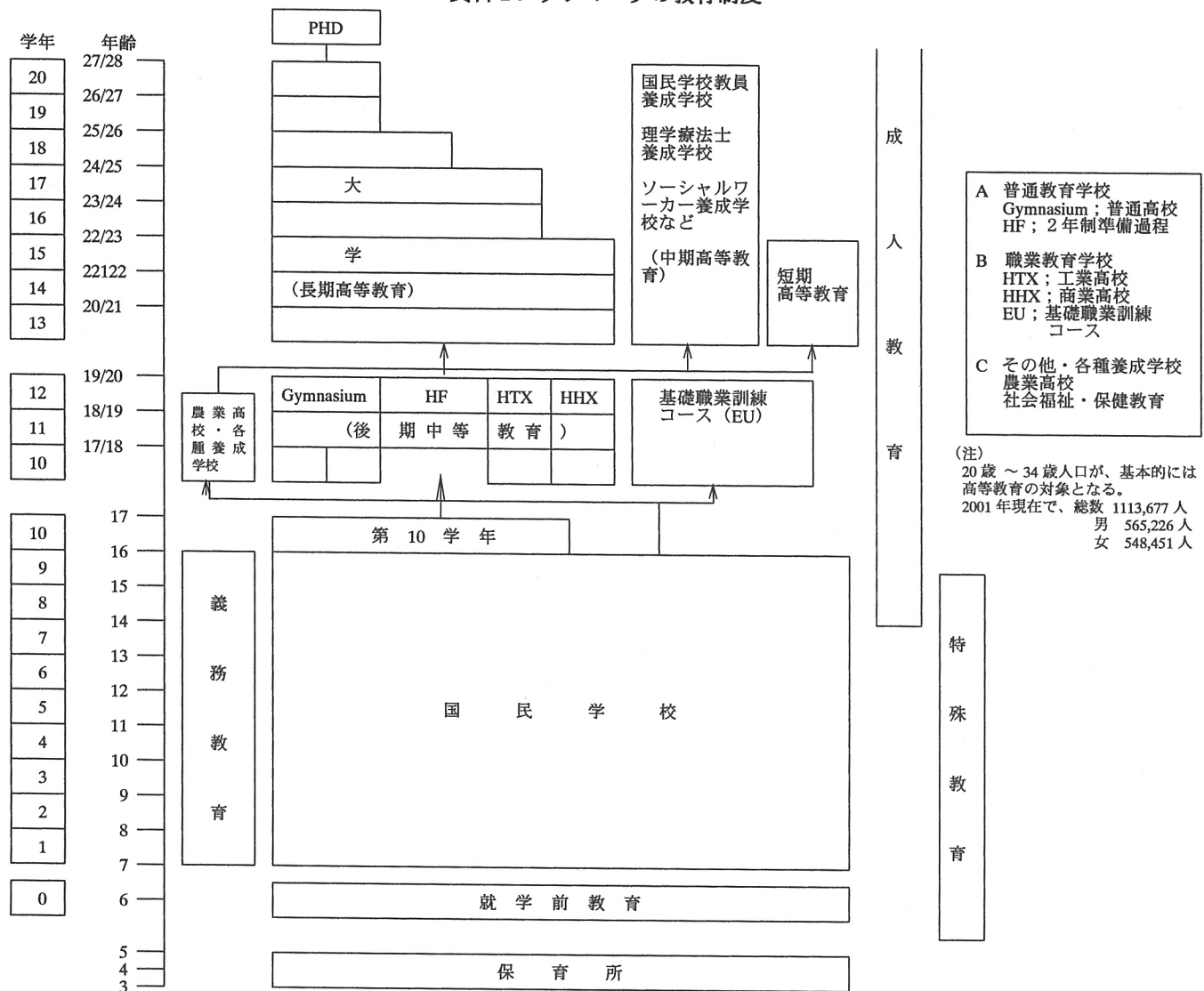
- 1) 平成13年度日本看護系大学協議会総会(2001). 大学改革と看護学教育.
- 2) The School of Advanced Nursing Education (2001). Aauhus University, Denmark.
- 3) DOCTORATES AND PHDS-2000(200,2001). Summaries of Doctorates and PHDs awarded by the University of Aarhus in 2000.
- 4) 大橋靖雄、数間恵子、宮下光令(2001). 日本の看護研究とEvidence-Based Nursing. Quality Nursing, 7(10): 4-13.
- 5) Ministry of Health(2001). HEALTH CARE IN DENMARK Summary.
- 6) 杉本正子、高石純子、山本美智代他(1999). 看護系大学院研究科の在り方に関する検討、東京保健科学学会誌、1(2): 171-179.
- 7) 杉森みどり(2000). 看護教育学. 第3版. 医学書院.
- 8) 仲村優一、一番ヶ瀬康子(1999). 世界の社会福祉 デンマーク・ノルウェー. 初版. 旬報社.

# Higher Education and the School of Advanced Nursing Education at Aarhus University, Denmark

YOKO TSUCHITORI

*Department of Nursing, Faculty of Health and Welfare Science, Okayama Prefectural University,  
111 Kuboki, Soja-shi, Okayama 719-1197, Japan.*

Key words: Nursing education, Curricula, Evidence-based nursing, Research, Ethics

資料1. デンマークの教育制度<sup>8)</sup>

(出典 ; Education indicators Denmark 1996, Facts and Figures 1996, Undervisnings ministeriet.)

資料2. デンマークの教育機関と学生・生徒数<sup>8)</sup>

教育機関種別	学生・生徒数			学校数
	男 性	女 性	合 計	
1. 基礎教育学校	312,091	298,450	610,541	2,532
2. 高等学校その他	28,542	45,308	73,850	150
3. 職業専門学校	92,336	74,803	167,139	235
4. 高等教育機関	74,220	93,544	167,764	168
総合大学・同センター	33,583	34,858	68,441	5
教員養成専門学校	4,629	8,533	13,162	18
社会教育者養成専門学校	3,459	14,076	17,535	34
家政専門学校	39	449	488	2
工芸専門学校	185	1,944	2,129	8
デンマーク教育大学	862	1,925	2,787	1
音楽大学	607	612	1,219	7
造形美術大学	88	104	192	1
演劇学校	72	66	138	1
ジャーナリスト大学	611	369	980	3
図書館学校	249	572	821	2
学芸員学校	20	69	89	1
映画学校	47	40	87	1
商科大学・同センター	13,272	11,105	24,377	8
社会事業単科大学	329	1,452	1,781	5
デンマーク輸出学校	64	31	95	1
技術養成単科大学	4,964	1,036	6,000	9
デンマーク工科大学	4,922	1,277	6,199	1
建築学校	1,040	1,026	2,066	2
機械技術養成学校	1,455	23	1,478	8
農業単科大学	1,347	1,659	3,006	1
航海・航空学校	451	39	490	3
看護学校	492	8,583	9,075	25
看護単科大学	21	510	531	2
助産婦学校	—	246	246	2
理学・作業療法士学校	446	2,120	2,566	10
放射線技術養成学校	60	90	150	3
薬科大学	333	713	1,046	1
土官学校	573	17	590	3

(出典 ; Statistisk arbog 1998, Danmarks Statistik.)